



2010年度の学校始まる

急に春めいて、ぽかぽか陽気の中4月3日(土)、入園・入学式・始業式がWTA校、LI校それぞれで行われ、無事学校が始まりました。どの子にとっても新しい気持ちでのスタートです。この一年が子ども達一人ひとりにとって、希望に満ちた充実した毎日であって欲しいと願っています。

今回私はLI校の方に参加しましたので、残念ながら今この時点でもWTA校の様子は分かりません。授業日2回目の10日にはWTA校に行くことになっていますので、とても楽しみです。そんなわけで今回はLI校の印象についてしか書けないことをお許ください。

着任して間もない中迎えた入学式当日は、私にとって緊張と興奮の連続した一日でした。借用校との出会い、多くの人々との出会いではとても鮮烈な印象を受けました。どれをとっても言い尽くせないほどのものでした。これまで二回の日本人学校の経験があり、在外教育の関わりの中で、補習授業校の関係者にお話を聞いてはいたのですが、聞くとは違いました。

というのが実感でした。話の中では人は動きませんが、実際の補習校では、子ども達が、教師が、保護者が、それにサポートしてくれる多くの方々が動いていました。そのことに感激しました。人と人との共同作業の中で、補習授業校が成り立っていることを改めて感じた次第です。長い歴史の中でこうした流れが培われてきたことも、先生方のお話から知ることができました。私自身その中に身を置くことになった幸せを強く感じました。と同時に私に課せられた責任の大きさも感じたところです。来賓の方や保護者の方々、たくさんの先生方とお話しする中で、多くの新鮮な情報に接しました。どれをとっても重要に思われるものばかりでした。これからのお付き合いの中で、繰り返しお話を伺えるところがたいと思います。一日が終わる頃になって、ようやく自分を取り戻し、アメリカの大地に足が着いたな、と感じられるようになりました。

まだWTA校の関係者皆様にお会いしていませんので、実際のところはまだ片足しか着いていない感じです。私にとっての本当のスタートは、10日のWTA校に行ってからということになります。これまでの経験を生かすチャンスをいただいたと思っていますので、精一杯努力していくつもりです。この一年どうぞよろしくお願いいたします。



うれしい入園・入学の日